山口大学医学部&附属病院から笑顔と情報を発信するコミュニケーションマガジン

山大医学部病院だより

Yamaguchi University
Faculty of Medicine and Health Sciences

Yamaguchi University Hospital

NEWS

医学部図書館リニューアルオープン

9
2021
VOL.252

医学部図書館

学生からの要望で新設したリフレッシュラウンジでは飲食も可能

リニューアルオープン

改修竣工記念式典を開催しました

7月2日（金）、医学部図書館改修竣工記念式典を開催しました。

図書館の改修工事は、令和2年9月に着工し、令和3年3月に完成。準備期間を経て、このたびリニューアルオープンしました。

式典では、岡学長の式辞に続き、篠田医学部長が「大変利便性が良くなり、グループ学習スペースも充実したので、ぜひ学生にたくさん利用してほしい」と挨拶し、根ケ山館長が謝辞を述べました。

岡学長挨拶

最後に、リニューアルオープンを記念して、テープカットが行われ、式典は無事終了しました。その後見学会が行われ、職員から詳しい説明がありました。

リフレッシュラウンジも備えて、より快適な空間へ

内覧会

蔵書冊数15万8千冊以上
ITラウンジやグループワークエリアも新設

新図書館は多数の情報端末を備えたITラウンジをはじめ、個室スペースで大型モニターを設置したグループ学習室や様々な人数でのグループワークに対応できるエリアを新たに設置し、学生達が課題解決やプレゼン練習等能動的な学習ができるよう機能を充実させました。

また、学生からの要望による飲食可能スペースを設置し、心身ともにリフレッシュし快適に過ごすことができる休憩空間も提供します。

様々な人数での学習に対応 1F・グループワークエリア

新設された館内の書架

静かで集中できる 2F・個人学習エリア

1F・グループワークエリア

外観

木製ルーバーが印象的な温かみのある館内

1F・展示コーナー

1F・リフレッシュラウンジ

再開発整備事業のホームページを公開

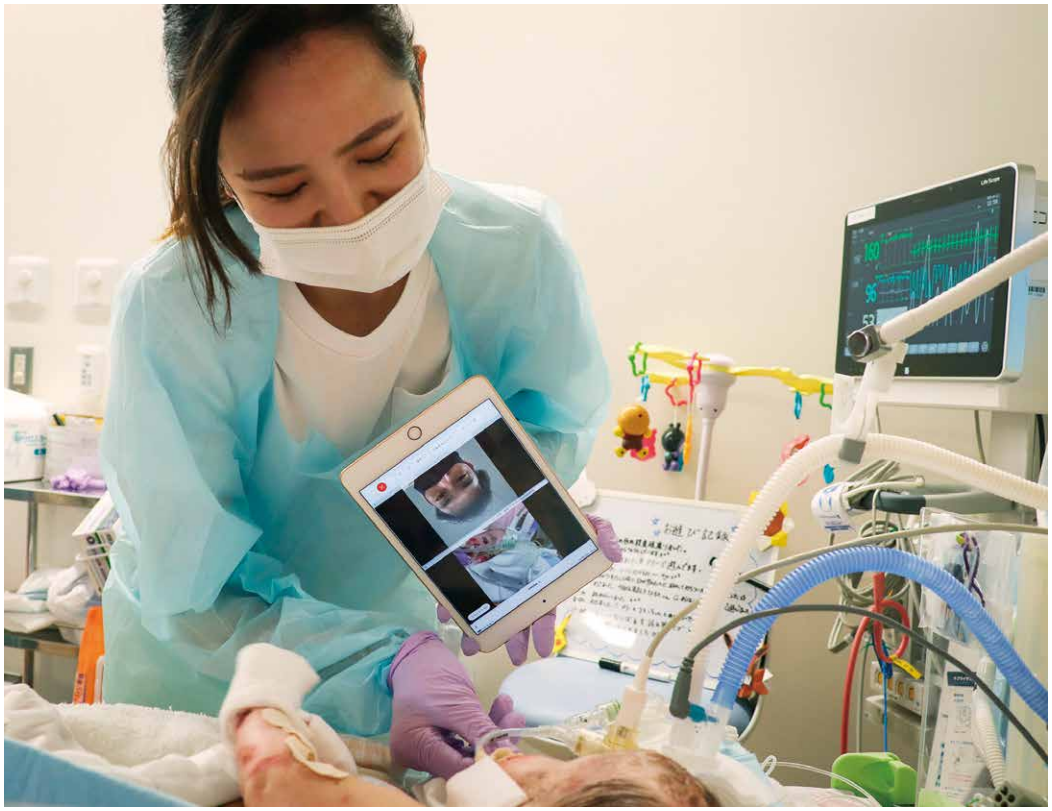
Information

再開発整備事業のホームページが公開されました。事業のコンセプト、整備を進めている B 棟やインタビュー記事などについて掲載しています。４つのテーマのインタビューでは、医療スタッフから地域の病院・店舗まで、山口大学医学部附属病院に関わる様々な立場の皆さんの想いをお届けしていますので、ぜひご覧ください。

再開発整備事業 4つのテーマ

- 山大病院を支える人々
- 医療を支える人々
- 山大病院とつながる暮らし
- 地域医療を支えるつながり

新たに公開された再開発整備事業ホームページ



タブレットで赤ちゃんを撮影するお母さんと、画面越しから話しかけるお父さん

NICU・GCU入院児のオンライン面会

NICU・GCUとは

当院の総合周産期母子医療センターは、新生児集中治療室（NICU）と新生児回復期治療室（GCU）を兼ね備えています。

NICUは、未熟な状態で生まれた赤ちゃんや呼吸の助けが必要な赤ちゃん、心臓などに病気がある赤ちゃんに、24時間365日体制で集中治療を提供しています。また、GCUでは、NICUで急性期治療を終え、退院に向けた体重増加などのフォローや、他の産科医院から搬送されてきた赤ちゃんへの治療を提供しています。

オンライン面会について

本来、ご出産の後には、赤ちゃんを抱っこして話しかけたり、ミルクをあげたりなど、赤ちゃんとの『触れ合い』があり、それによって愛着が形成されていきます。しかし、NICU・GCUに入院する赤ちゃんとその母親は、出生時より母子分離状態を余儀なくされています。入院中の赤ちゃんと触れ合う機会をつくるために、これまではご両親の面会を24時間可能としていましたが、新型コロナウイルス感染拡大予防措置として2020年3月より原則面会禁止となっています。

面会禁止の措置がとられた後は、入院中の赤ちゃんの様子を伝えるため、適宜看護師がご家族に電話をかけるなどの対応をしてきましたが、十分な愛着形成の構築にはほど遠い状況でした。そこで、コロナ禍でも安心して赤ちゃんと繋がりを持てるように、NICU・GCUでは、ご自宅等から接続可能なオンライン面会を2021年7月より実施しています。

オンライン面会によって、ご家族は、入院中の赤ちゃんをご自宅などからご覧になれます。また、ご家族からのお声かけや、ご家族の様子を赤ちゃんに見てもらうなども可能です。オンライン面会の利用者からは、「入院中の面会は、感染対策でマスクをして会わなければなりませんでしたが、オンラインで面会することで、マスクを外した親の顔を赤ちゃんに見せられたのがとても良かったです」などご好評をいただきました。

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、不安を抱えているご家族の気持ちに寄り添いながら医療を提供できるよう、NICU・GCUスタッフ一丸となって取り組んでいきたいと思います。

教授就任のごあいさつ

山口大学大学院医学系研究科
消化器内科学講座教授
山口大学医学部附属病院第1内科長
高見太郎

令和3年7月1日付けで、山口大学大学院医学系研究科消化器内科学講座教授および山口大学医学部附属病院第1内科長を拝命しました高見太郎（たかみ・たろう）と申します。

私は平成5年に山口大学医学部に入学しました。卒業後は「死因第1位である癌を内科治療で治したい」という志のもと、山口大学医学部消化器内科学（旧内科学第1講座）に入局し、肝臓を専攻しました。そして多くの肝癌患者さんに貢献できる研究がしたいと思い、大学院および海外留学では「肝発癌機構の解明」に取り組みました。平成20年に帰学後は肝癌の母地となる肝硬変自体の治癒を目指す肝臓再生療法は「肝癌の Chemo-prevention」となることを報告し、研究の比重を再生療法へと移しました。特に非代償性肝硬変症に対する培養自己骨髄間葉系幹細胞を用いた再生療法の開発を行い、令和2年9月より本院で医師主導治験「自己完結型肝硬変再生療法」を行っています。

私を育ててくれた消化器内科学講座は、遡れば胃カメラの開発、超音波内視鏡の胃5層構造、Strip biopsy 法、グルカゴン・インスリン療法、鉄キレート剤による肝癌動注療法、自己骨髄細胞投与療法から始まった肝臓再生療法と、常に挑戦してきた教室です。今後は肝硬変・肝臓再生に加えてアンメット・メディカル・ニーズである消化器癌を重要テーマとし、橋渡し研究やそれを支える基礎研究に取り組み、私なりの新しい風を吹かせていきたいと思っています。また優秀なリサーチマインドを持った消化器内科専門医を育成することで、山口県の医療に最後まで責任を持ってまいります。

本院、第1内科は、消化管内科、肝臓内科、胆道膵臓内科をはじめ、様々なセンターと連携を図りながら患者さんと向き合い、診断・治療を行っています。

患者さんにおかれましては、不安なことがありましたら些細なことでも私たち第1内科にご相談ください。今後ともよろしくお願い申し上げます。

Information

精神科神経科で
認知機能検査入院を開始しました

現在、日本の高齢化率は世界1位であり、2018年の時点で山口県では33.1%、全国3位となっています。このため、加齢などに伴い認知症や軽度認知障害とよばれる状態の方も増加してきています。一方、その機能変化の原因を詳しく調べることができる医療機関は限られています。また、ご本人やご家族が検査を受けるために頻回に病院に来なければならないことは身体的、精神的、経済的な負担が大きいと思われます。

このような背景もあり、山口大学医学部附属病院精神科神経科では、脳神経内科、脳神経外科、放射線科、検査部などの協力の下に3泊4日の短期入院検査を行うプログラムを開設いたしました。事前に新患として外来を受診していただき、最短3泊4日の入院で認知機能検査、血液検査、脳波検査、頭部MRI、頭部SPECT、DAT-scan、脳脊髄液検査などを網羅的に検査できます。また、後日にご本人とご家族、かかりつけ医に検査結果を詳しくお伝えします。

状態を把握することが対応や治療の第一歩になります。ご連絡ください。

診断ならびに治療援助を提供するプログラムです。かかりつけ医のいらっしゃる方が対象となります。原則として治療はかかりつけ医と継続していただくことになります。

詳しくはこちら

お問い合わせ

精神科神経科外来　TEL0836-22-2506

Topic 山口県飲食業生活衛生同業組合から「感謝のエール弁当」が届けられました

令和３年６月１７日（木）、山口県飲食業生活衛生同業組合（宇部支部１０店舗）から新型コロナウイルス感染症患者の治療にあたる医療従事者を応援しようと看護師及びスタッフに「感謝のエール弁当」５３５個が届けられました。

明徳宇部支部長から「医療従事者の皆さんも本当に大変な仕事だと思いますが頑張っていただきたい。ともにコロナを勝ち抜きましょう」と応援のお言葉をいただきました。

これを受けて、原田看護部長が「病院で働くスタッフはずっと緊張が続いた状態で頑張っている状況です。こうして応援してくださっている方がたくさん近くにいらっしゃることに勇気づけられました」と感謝の言葉を伝えました。

【ご提供いただいた10店舗】

ポレポレ 様，一力 様，CAPTAIN（キャプテン）様
小料理 恋 様，からあげ食堂 黒べえ 様，お茶々 様
YUTAKAグループ 様，だんく 様，霜降山カフェ 様
エクスプローア 様

Topic 神戸市、沖縄県に派遣された看護師と病院長の懇談を行いました

綱木看護師、松冨看護師より報告

村上看護師による報告

６月２２日（火）、本院から文部科学省の要請に基づき、新型コロナウイルス感染拡大により医療体制のひっ迫が深刻な状況となった神戸市の神戸市立医療センター西市民病院に派遣された綱木看護師（派遣期間：5月6日～5月14日）と松冨看護師（派遣期間：５月２４日～６月４日）両名が病院長と懇談し、派遣当時の様子を報告しました。

綱木看護師から、「派遣された病院は中等症から重症の方が多く、コロナの患者さんのための病床はほぼ満床でした」、松冨看護師からは「残念ながらコロナで亡くなられた患者さんのお見送りの際、ご家族から感謝と激励を受けたことがとても印象的でした」などの報告がありました。

また、８月２日（月）、同じく沖縄県立中部病院に派遣された村上看護師（派遣期間：６月１７日～６月３０日）が、病院長に派遣先での活動内容などについて報告し、「クラスターへの対応や十分な物資がない中、本院以外で活動を行うことにより、いつもは守られた環境で働くことができていることを感じた」などとの感想を述べました。

懇談の結びに、病院長から本院を代表して派遣されたことに対する謝辞が述べられました。

Topic

令和3年度 山口県福祉功労者（優良看護職員）知事表彰 伝達式を行いました

7月9日（金）、「令和3年度山口県福祉功労者（優良看護職員）知事表彰」伝達式を行いました。

この表彰は、県内の病院に従事する勤務成績の優秀な看護職員に贈呈されるものです。

伝達式では、杉野病院長から受賞者に表彰状が授与され、永年の勤務に対するお礼と今後のさらなる活躍を期待する旨の祝辞がありました。原田看護部長、西村副看護部長も同席し、受賞を祝しました。受賞者は次のとおりです。

■看護部　看護師　近沢三枝

Topic

夏休みフードパントリー in 山口大学が開催されました

7月16日（金）、NPO法人山口せわやきネットワーク「こども明日花プロジェクト」および山口大学基金との共催で、経済的に困難な状況におかれている学生向けに食品配布が行われました。

医学部では、小串キャンパス医心館にて、レトルトやパスタ、シーチキンなどの食品詰め合わせと、お米1キログラムの50セットが配布され、学生たちに喜ばれていました。

■主催：NPO法人山口せわやきネットワーク こども明日花プロジェクト　■共催：山口大学基金　■協力：NPO法人フードバンク山口

Topic

2021年度 治験功労者表彰式を行いました

7月27日（火）、2021年度治験功労者に対する表彰式を執り行いました。

この表彰は、治験の推進に特に顕著な功績があった個人及び団体を表彰するものです。式では、杉野病院長から治験症例を多く登録した医師及び団体を表彰するとともに、治験を円滑に進める為にご貢献いただいた団体に敢闘賞を贈呈しました。また治験への貢献に対する謝辞ならびに今後のさらなる活躍を期待する旨の祝辞がありました。

2021年度の受賞者は、次のとおりです。

【個人賞】
第一位　泌尿器科　松山豪泰
第二位　泌尿器科　松本洋明
第三位　眼科　湧田真紀子

【団体賞】
泌尿器科

【敢闘賞】
中央採血室，AMEC³，医事課診療報酬係

10月開設 間質性肺炎外来

本院では、令和３年10月6日（水）、間質性肺炎外来を開設します。

一般的に「肺炎」は、細菌やウイルスなどに感染して起こる病気ですが、「間質性肺炎」は感染による肺炎とは違い、様々な原因によって起こります。例えば、古い家に住んでいる方が日常的にほこりやカビを吸うことで発症したり、昔仕事でアスベストなどの粉塵を吸入していた方が年月を経て発症したりすることもあります。また、リウマチを代表とする膠原病（こうげんびょう）や、サプリメントや漢方、病院で処方されるお薬によって起こることもあります。間質性肺炎となる要因は多岐に渡りますが、精密検査を行っても原因が特定できないこともあります。この場合は、医療費助成の対象となる指定難病の1つで、特発性（とくはつせい）間質性肺炎と呼ばれます。

間質性肺炎の患者さんの肺組織では、炎症や線維化（組織が固くなること）が様々な割合で起こりダメージを受け、肺活量が低下し、酸素の取り込みがうまくいかなくなります。症状としては、息切れや乾いた咳が特徴です。病気の進行速度は患者さんによって様々で、ゆっくり進む場合もありますが、高齢の患者さんはなかなか症状の進行に気付きにくいため、間質性肺炎と診断されるころにはかなり悪化していることもあります。そのため、早期発見と適切な評価・治療を行うことが重要です。特発性間質性肺炎の中で最も頻度の高い特発性肺線維症は、これまで有効な治療法が乏しかったのですが、最近では抗線維化薬という薬剤によって病気の進行を抑えることが可能となりました。その他にも間質性肺炎ではステロイド、免疫抑制剤などの抗炎症薬で治療する場合もあります。更に、リハビリや酸素吸入などの全身状態の管理なども並行して行っていくことも重要であり、きめ細やかな診療が必要です。

「間質性肺炎」と一言で言っても患者さんによって原因、重症度、進行のスピードは千差万別であるため、お一人お一人丁寧に診察を行い、専門医がしっかり治療戦略を考えていかなければならない疾患です。間質性肺炎は進行性かつ診断が難しい病気です。少しでもご不安があればなるべく早く専門外来を受診してください。

山口大学病院 youtube 間質性肺炎 検索

YouTubeで説明しています

このたび開設する間質性肺炎外来は、毎週第１・第３水曜日（大石医師）と第２・第４木曜日（浅見医師）の14時～16時半、間質性肺炎に詳しい呼吸器・感染症内科の医師が、適切な診断と評価、最適な治療を行います。

また、山大病院へ何度も通うのが難しい遠隔地や高齢の患者さんにも質の高い治療を受けていただくため、「短期入院プログラム」も新たに導入します。このプログラムでは患者さんに1週間程度の入院をしていただき、医師、薬剤師、リハビリ療法士、看護師、栄養士、ケースワーカーなど多職種のチームで診療を行います。

間質性肺炎外来は、予約制で紹介状が必要となります。まずはかかりつけ医にご相談いただき、かかりつけ医療機関より予約をお願いいたします。

お問合せ　呼吸器・感染症内科外来　TEL0836-22-2707

公式Facebookページで
山大病院の情報を配信中!!

企画発行　山口大学医学部広報委員会・山口大学医学部総務課総務係
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号　TEL 0836-22-2007
医学部 http://www.med.yamaguchi-u.ac.jp/
附属病院 http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/